

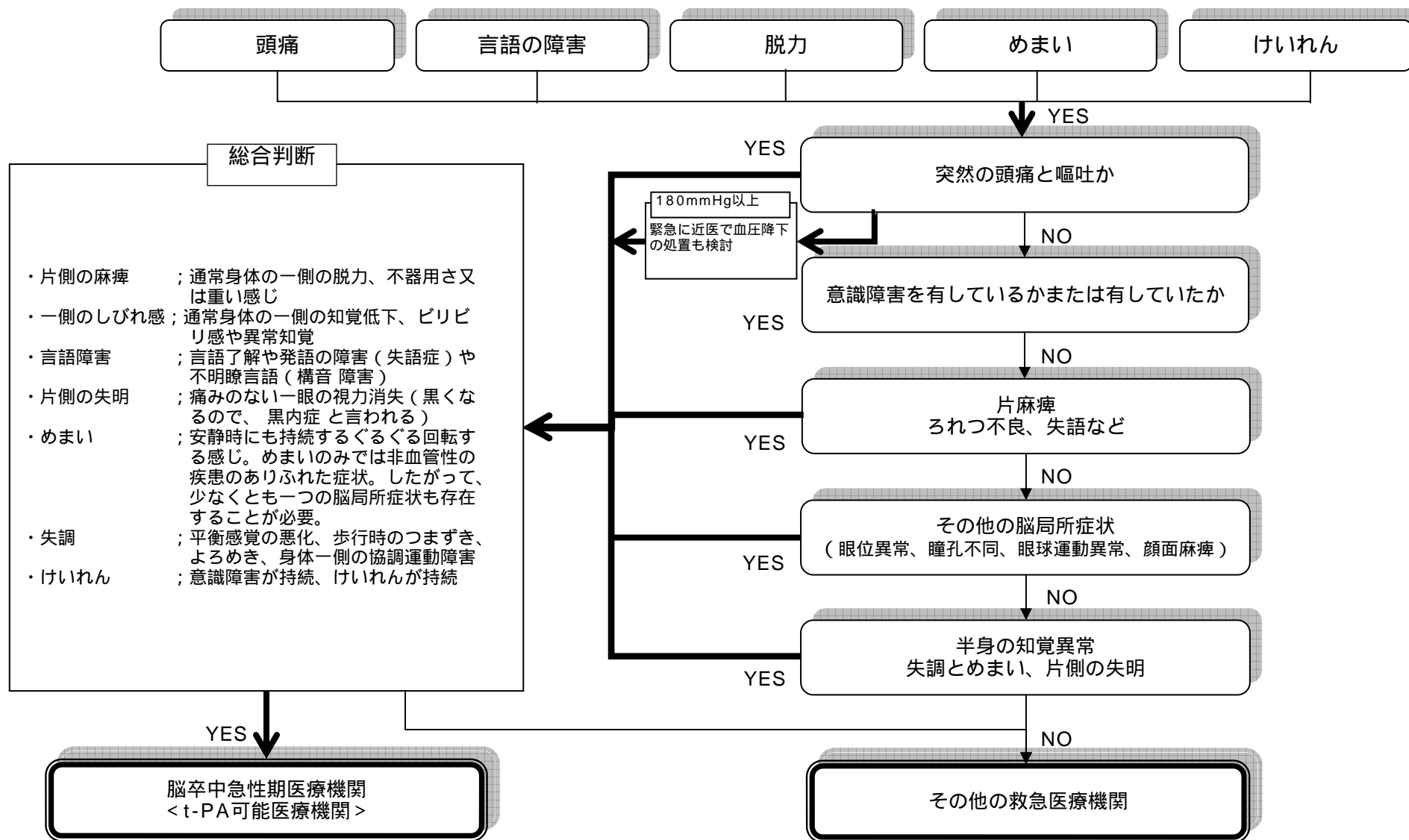
3 観察基準（法第35条の5第2項第3号）

救急隊が傷病者の状況を確認するための基準（以下、「観察基準」という。）を次に掲げる症例ごとに定める（別紙3（P17～P21））。

- ア 脳卒中が疑われる症例
- イ 循環器疾患（大動脈解離・急性冠症候群）が疑われる症例
- ウ 重症度・緊急度が高い小児・乳幼児の症例
- エ 重症度・緊急度が高い妊産婦の症例
- オ 外傷症例

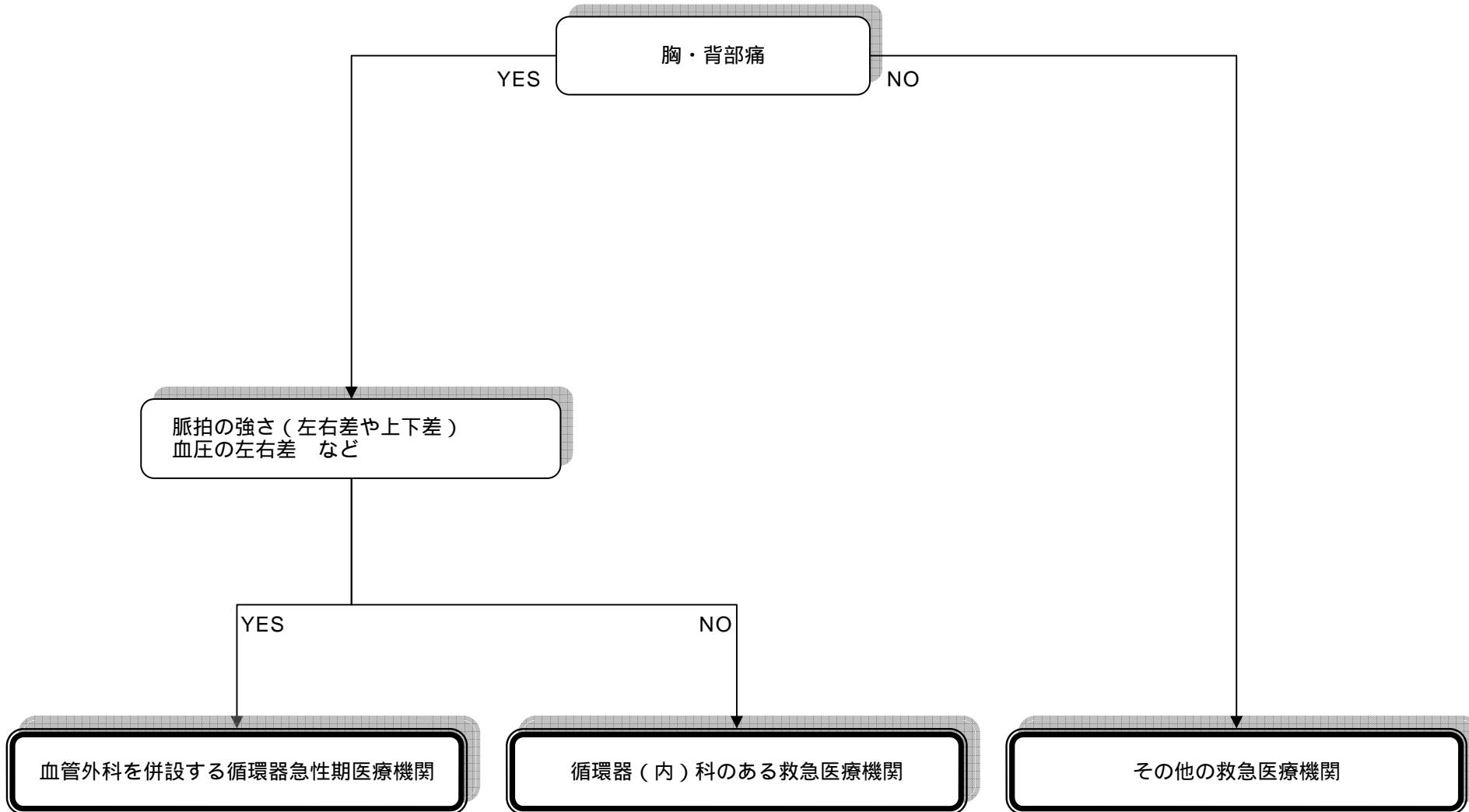
この基準は、消防機関が受入医療機関を選定するために、傷病者の状況が分類基準のどの分類に該当するかを判断するための材料を正確に得るため、消防機関が傷病者の症状等（状況）を観察（確認）するためのものである。

脳卒中が疑われる症例の観察・判断基準



搬送時間等から直近の基幹病院等への収容も考慮すること

循環器疾患（大動脈解離・急性冠症候群）が疑われる症例の観察・判断基準



搬送時間等から直近の基幹病院等への収容も考慮すること

重症度・緊急度の高い小児・乳幼児症例の観察・判断基準

<重症度の判断>

- 状況聴取
 ・主訴、現病歴、既往症、服用薬、通院歴など
 バイタルサインの観察
 次の事項を観察し総合的に判断すること
- ・意識：JCS100以上
 - ・呼吸：
 - 新生児：30回/分未満又は50回/分以上
 - 乳児：20回/分未満又は30回/分以上
 - 幼児：20回/分未満又は30回/分以上
 ：呼吸音の左右差
 ：異常呼吸
 - ・脈拍：
 - 新生児：100回/分未満又は150回/分以上
 - 乳児：80回/分未満又は120回/分以上
 - 幼児：60回/分未満又は110回/分以上
 - ・血圧：
 - 新生児：収縮期70mmHg未満
 - 乳児：収縮期80mmHg未満
 - 幼児：収縮期80mmHg未満
 - ・SpO2：90%未満
 新生児の場合、出生後5分以上のApgar Score7点以下

新生児：生後28日未満
 乳児：生後28日から1歳未満
 幼児：1歳から6歳未満

()
 在胎36週未満の新生児又は明らかに未熟で小さい

YES
 周産期医療機関へ
 小児科医による診療が可能な医療機関

YES
 小児二次救急医療機関又はさらに
 高次機能を有する小児医療機関

NO
 小児医療機関へ
 小児科医による診療が可能な医療機関

NO
 初期又は二次救急医療機関

搬送時間等から直近の基幹病院等への収容も考慮すること

内因性疾患

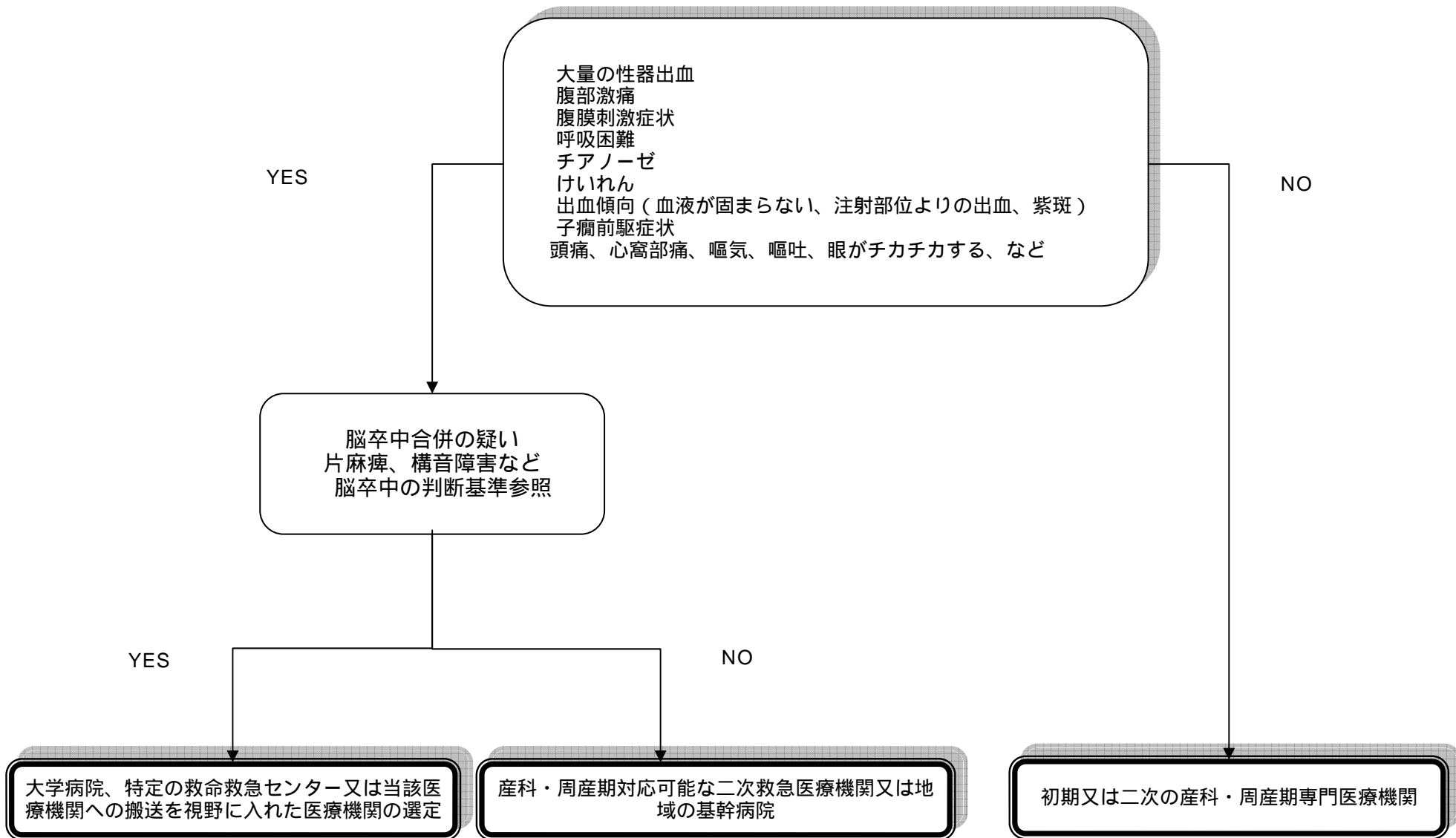
ぐったり又はうつろ
 異常な不機嫌
 異常な興奮
 低体温
 頻回の嘔吐、胆汁性の嘔吐
 出血傾向（血液が固まらない、注射部位よりの出血、紫斑など）
 高度の黄疸
 脱水症状（皮膚乾燥、弾力なし）
 瞳孔異常（散瞳、縮瞳）
 痙攣の持続
 多発外表奇形の新生児
 在胎36週未満の新生児又は明らかに未熟で小さい()

外因性疾患

重症の疑いあり

YES
 大学病院、救命救急センター
 又はこれに準ずる二次救急医療機関
 乳幼児の場合は特に考慮

重症度・緊急度の高い妊産婦症例の観察・判断基準



搬送時間等から直近の基幹病院等への収容も考慮すること

外傷症例の観察・判断基準/別紙

< 重篤度の判断 >

状況聴取

- ・主訴、現病歴、既往症、服用薬、通院歴など

バイタルサインの観察

次の事項を観察し総合的に判断すること

- ・意識：JCS 100以上
- ・呼吸：10回/分未満又は30回/分以上
 - ：呼吸音の左右差
 - ：異常呼吸
- ・脈拍：120回/分以上又は50回/分未満
- ・血圧：収縮期血圧90mmHg未満又は収縮期血圧200mmHg以上
- ・SpO2：90%未満
 - 1 外傷症例の場合、解剖学的評価、受傷機転も評価すること。別紙参照のこと。
 - 2 乳幼児の場合は、「重症度・緊急度の高い小児・乳幼児症例の観察・判断基準」を参照のこと

評価

< 解剖学評価 >

- 顔面骨折
- 頸部又は胸部の皮下気腫
- 外頸静脈の著しい緊張
- 胸部の動揺、フレイルチェスト
- 腹部膨隆
- 骨盤骨折（骨盤の動揺、圧痛、下肢長差）
- 両側大腿骨骨折（大腿の変形、出血、腫脹、圧痛、下肢長差）
- 頭部、胸部、腹部、頸部又は鼠径部への穿通性外傷（刺創、銃創 など）
- 15%以上の熱傷を複合している外傷、顔面又は気道の熱傷
- デグロービング損傷
- 多指切断（例えば手指2本、足指3本 など）
- 四肢切断
- 四肢麻痺

YES

NO

< 受傷機転 >

- 同乗者の死亡
- 車から放り出された
- 車に轢かれた
- 5m以上はね飛ばされた
- 車が高度に損傷している
- 救出に20分以上要した
- 高所墜落

- 車の横転
- 転倒したバイクと運転者の距離が大
- 自動車が行歩者・自転車に衝突
- 機械器具に巻き込まれた
- 体幹部が挟まれた

YES

NO

救命救急センター又はこれに準じる二次救急医療機関若しくは地域の基幹病院

その他の救急医療機関

搬送時間等から直近の基幹病院等への収容も考慮すること